

第 **116** 号
2016.2

北海道

米麦改良

麦作

・ 2年連続の多収に向けた春作業

稲作

・ 第53回(平成27年度)北海道優良米生産出荷
共励会審査結果

お知らせ

・ 平成27年度 米麦生産技術講習会開催



会報誌「北海道米麦改良」はホームページでもご覧になれます。
<http://www.beibaku.net/>

一般社団法人 北海道米麦改良協会

売れる米を 低コストで 安定生産

めざそう 小麦の 品質向上

適正な 農産物検査の 実施



も く じ

麦作	2年連続の多収に向けた春作業……………	1
稲作	第53回（平成27年度）北海道優良米生産出荷共励会審査結果……………	5
お知らせ	平成27年度 米麦生産技術講習会開催……………	6

麦 作

2年連続の多収に向けた春作業

北海道農政部生産振興局 技術普及課 十勝農試駐在

主任普及指導員（農業革新支援専門員） 田 原 修 一

融雪の遅れは、秋まき小麦では雪腐病の被害を助長するほか、春まき小麦では、は種の遅れをもたらしなど、小麦の生育や収量に大きな影響を与える。昨年の雪腐病の被害は、近年では最も少なく、全道的な多収要因の一つになったことを忘れてはならない。

雪腐病の被害軽減には、融雪材散布による融雪促進が極めて重要である。また、融雪水の停滞は、秋まき小麦の茎数の減少や春まき小麦のは種作業の遅れをもたらしため、排水対策も欠かせない管理作業である。

1 融雪促進

(1) 秋まき小麦における融雪促進の効果

平成27年の融雪期及び雪腐病の発生は、地域間差は見られたものの道央・道北の融雪期は近年になく早く（表1）、雪腐病については発生面積率、被害面積率共に平年を下回った（表2）。

雪腐病は、一般に積雪期間が長くなるほど被害が増加し（図1）、積雪期間は融雪が遅れるほど長くなる傾向にある（図2）。

道内でも根雪が早く、融雪が遅い上川地域では、根雪の終日が早まると出穂期が早まる傾向が見られる（図3）。また、出穂期が早まると登熟日数が長く確保され（図4）、最

最終的に収量が増加する傾向が認められた（図5）。

融雪促進は、雪腐病の被害を軽減し、穂数

表1 H27年の根雪終日（農試作況）

	H27年	平 年	差
長 沼	3月24日	4月6日	+13
比 布	4月2日	4月14日	+12
芽 室	4月10日	4月6日	-4
訓子府	4月16日	4月12日	-4

表2 H27年度雪腐病の発生状況

	面 積	率	左平年
発生面積	31,461ha	29.3%	36.7%
被害面積	2,055ha	1.9%	5.9%

※北海道病害虫防除所調べ

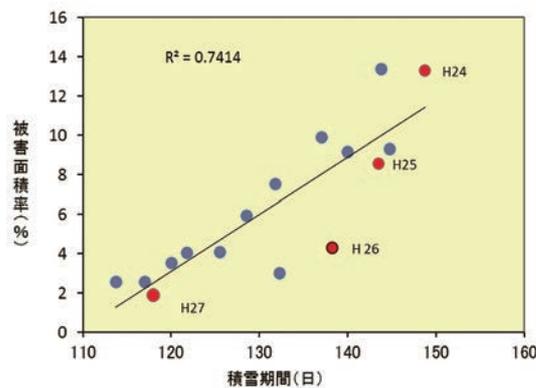


図1 積雪期間と雪腐病被害面積率

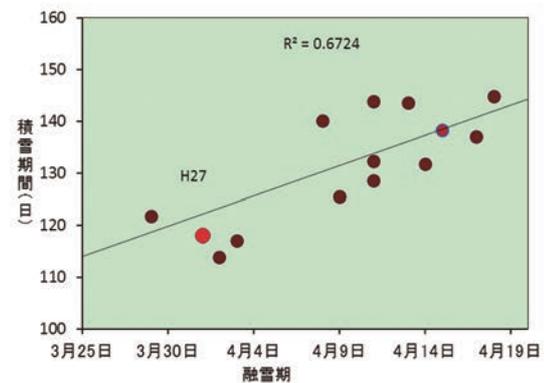


図2 融雪期と積雪期間

※図1、2の融雪期・積雪期間は中央・上川・十勝・北見農試の4場平均値
雪腐病被害面積率は北海道病害虫防除所による全道集計値（H12～H27）

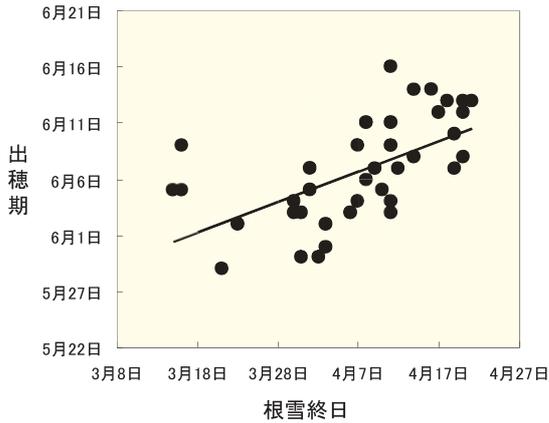


図3 根雪の終日と出穂期
(平成12~21年 上川農試作況調査)

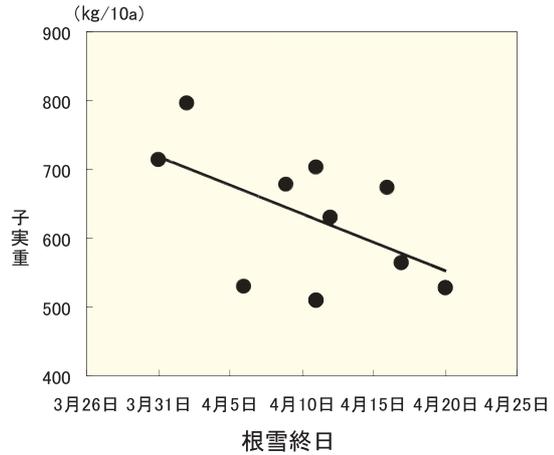


図5 根雪終日と子実重
(平成12~21年 上川農試作況調査)

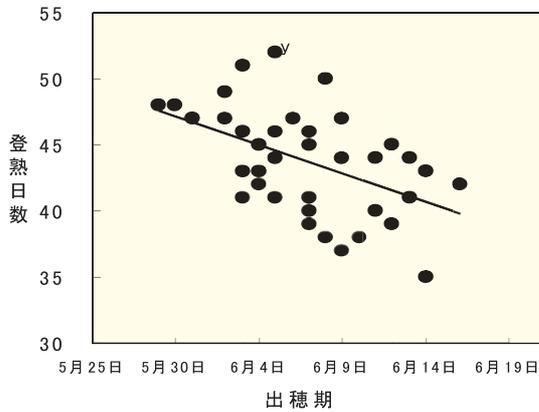


図4 出穂期と登熟日数
(平成12~21年 上川農試作況調査)

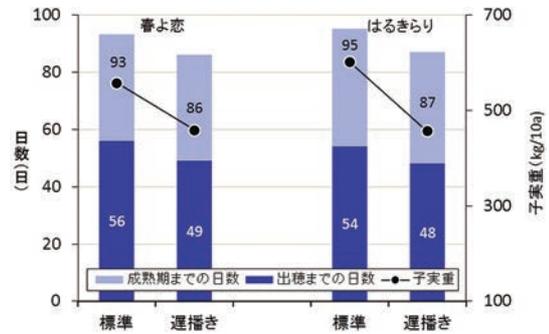


図6 播種期と生育日数
(H15~H18 北見農試)

の確保と穂揃いを良好にするほか、積雪期間が長い地域では、登熟日数の確保の点からも、安定確収に向けた重要技術である。

(2) 春まき小麦における融雪促進の効果

春まき小麦は、は種が遅れるほど生育期間

が短くなり、収量は低下するため、生育期間の確保が多収への第一歩となる (図6)。

また、は種時期が早いほど出穂が早まり、より低温期に出穂することで、赤かび病の発生が少なくなり、DON濃度も低下する傾向にある (表3)。

したがって、高品質で安定した収量を得るためには、融雪促進による早期は種が極めて

表3 播種時期による赤かび病発生程度及びDON濃度の比較 (H14年 中央農試)

供試品種	播種時期	薬剤散布	出穂期 (月日)	発病穂率 (%)	赤かび粒率 (%)	DON濃度 (ppb)	収量 (kg/10a)	千粒重 (g)
ハルユタカ	4月12日	無散布	6月9日	6.0	1.20	1,389	434	42.5
	4月22日	無散布	6月16日	10.3	2.00	1,286	420	41.5
	5月1日	2回散布	6月23日	45.0	3.30	5,640	182	35.3
春よ恋	4月12日	無散布	6月9日	3.3	0.53	534	404	43.6
	4月22日	無散布	6月14日	4.7	0.67	538	451	44.7
	5月1日	2回散布	6月22日	18.0	1.00	2,545	302	38.3

重要である。

ただし、初冬まき栽培においては、融雪を早めすぎると土壌の凍結により、越冬した春まき小麦が凍上害を受けることがあるので、注意が必要である（覆土をしないばらまきは種では特に注意する）。

(3) 融雪材の散布

積雪量や温度条件によって異なるが、融雪材の散布により 5～15日程度の融雪促進効果が期待される（図7）。散布適期は、日中の気温がプラス（日平均気温が-3℃以上）となり、20cm以上の降雪の確率が少なくなった頃である。

融雪材は、特性や効果により選択する（表4）。散布のポイントは、雪面の表面積を大きくすることであり、薄く均一に散布するよりも濃淡（縞状）をつけて散布する方が効果的である（写真1）。

また、散布後、20cm以上の積雪があった場合は再散布が必要である。特に、積雪の多いほ場では、融雪材を数回散布するつもりで早

い時期から散布を始め、少しでも早く積雪深を下げるようにする。

※融雪が早すぎると、前述の春まき小麦初冬まきの他、秋まき小麦（特に晩播）でも春期の土壌の凍上による根浮きの害を生ずるので注意が必要である。



写真1 融雪材の散布作業



写真2 雪上心土破碎

(写真提供：上川農業改良普及センター富良野支所)

表4 融雪材の特性

資材名	日 射 吸収量	効果の 持続性	土壌改 良効果	施用量 (kg/10a)
アッシュ類	○	○	-	40～60
融雪炭カル	○	○	○	60～100
乾 土	○～△	○	-	100～150

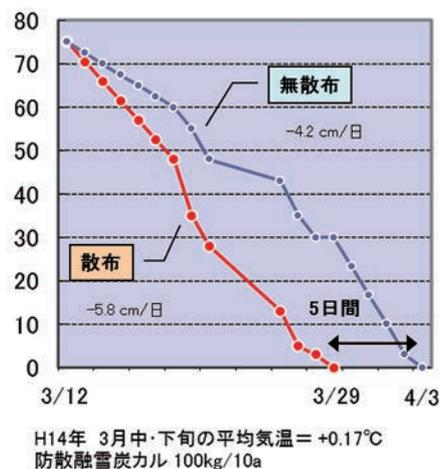
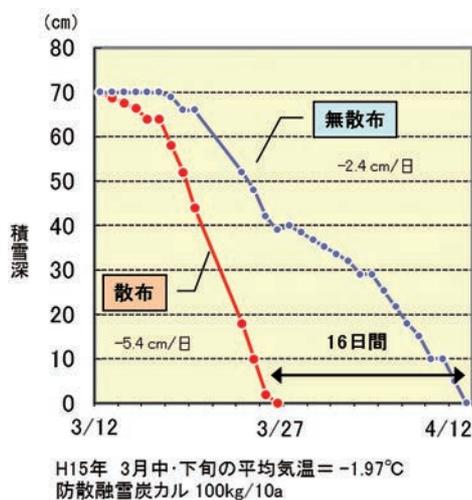


図7 融雪材の散布効果 (上川農試)

2 排水促進

秋まき小麦ほ場や、春まき小麦初冬まき栽培ほ場において、融雪水の停滞は窒息による枯死につながる。また、欠株の発生による減収はもちろんのこと、裸地での雑草の増加によって、除草・収穫作業に影響する他、次作物の生育をも左右する。

また、春まき小麦作付け予定ほ場では、は種作業を大幅に遅らせる要因となる。

ほ場に停滞水等が懸念される場合は、溝切りや雪上心土破碎（写真2）による、表面排水促進に努める。また、水田転作畑で施工する場合、畦畔を切って明渠排水路につなぐことが重要である。

稲 作

第53回（平成27年度）北海道優良米生産出荷共励会審査結果

第53回（平成27年度）北海道優良米生産出荷共励会へ各地区から出展をいただきありがとうございました。

本年度は、昨年に新設した「直播栽培部門」と従来の「移植栽培部門」とあわせ、合計6点の出展をいただきました。

第2回審査委員会を1月20日に開催し、現地調査を経て、正式に部門ごとの各賞を下記のとおり決定いたしました。

第53回（平成27年度）北海道優良米生産出荷共励会表彰者

※敬称略

1. 移植栽培部門

【個人の部】

【第1部 うるち米 12ha以上】

最優秀賞 堀 政 博（奈井江町）

【第2部 うるち米 6ha以上12ha未満】

最優秀賞 安 田 憲 司（厚真町）

特別優秀賞 西 原 諭（東神楽町）

2. 直播栽培部門

【第2部 うるち米 2ha以上12ha未満】

最優秀賞 佐 藤 忠 美（妹背牛町）

特別優秀賞 吉 本 辰 也（今金町）

優秀賞 徳 橋 征 往（岩見沢市）

お知らせ

28年産も良質な米麦をつくろう！

平成27年度良質米麦安定生産技術 講習会開催のお知らせ

稲作

- ◎良質米安定生産のための栽培技術について
- ◎良質米安定生産のための病害虫防除について
- ◎米をめぐる情勢について



開催日時等		開催場所	
2月24日(水)	※麦講習会と合同	13:30~	今金町 JA今金町 大会議室
2月25日(木)		10:30~	北斗市 北斗市農業振興センター
2月29日(月)	※麦講習会と合同	13:30~	苫前町 苫前町公民館
3月 2日(水)	※麦講習会と合同	13:30~	倶知安町 ホテル第一会館
3月 4日(金)	※麦講習会と合同	13:30~	岩見沢市 岩見沢平安閣
3月 9日(水)		13:30~	北見市 北見農業会館 大会議室
3月14日(月)	※麦講習会と合同	13:30~	札幌市 シャトレーゼガトーキングダム サッポロ
3月16日(水)		13:30~	東神楽町 JA東神楽
3月17日(木)	※麦講習会と合同	10:30~	厚真町 厚真町総合福祉センター

※開催地で内容が変わることがあります。

麦作

- ◎良質小麦安定生産のための栽培技術について
- ◎良質小麦安定生産のための病害虫防除について
- ◎小麦をめぐる情勢について



開催日時等		開催場所	
2月18日(木)		13:30~	北見市 端野町公民館
2月22日(月)		13:30~	幕別町 幕別町百年記念ホール
2月24日(水)	※米講習会と合同	13:30~	今金町 JA今金町 大会議室
2月29日(月)	※米講習会と合同	13:30~	苫前町 苫前町公民館
3月 2日(水)	※米講習会と合同	13:30~	倶知安町 ホテル第一会館
3月 4日(金)	※米講習会と合同	13:30~	岩見沢市 岩見沢平安閣
3月14日(月)	※米講習会と合同	13:30~	札幌市 シャトレーゼガトーキングダム サッポロ
3月15日(火)		13:30~	美瑛町 美瑛町民センター
3月17日(木)	※米講習会と合同	10:30~	厚真町 厚真町総合福祉センター

※開催地で内容が変わることがあります。

どなたでも無料で受講できます。
お申込みやご不明な点がございましたら、
各地区米麦改良協会又は
北海道米麦改良協会までご連絡下さい。
多数の受講をお待ちしております!!



【講師】北海道・道総研農業研究本部・ホクレン・実需
【主催】ホクレン・各地区米麦改良協会・北海道米麦改良協会
【共催】北海道

米啓発普及資材「ばか苗病」撲滅に向けた取組に、ご協力をお願いします！

(平成28年2月発行)

ホームページでもご覧になれます。http://www.beibaku.net/

水稻生産農家の皆様へ

「ばか苗病」撲滅に向けた取組に、ご協力をお願いします！

- ◆ばか苗病は種子伝染性病害です。
- ◆ばか苗病はその感染サイクル（次ページ）によって、撲滅が難しい病害です。
- ◆胞子が遠くまで飛散するため、特に、水稻の種子生産に甚大な影響を及ぼします。
- ◆地域ぐるみで、ばか苗病撲滅に取り組みましょう。



育苗ハウスで多発したばか苗

優良種子生産へのご協力について

採種圃場は、ばか苗病の発生がないことが法律で定められています。

◆道は平成26年度から、採種圃場に隣接する一般圃場にばか苗病の発病株があった場合、採種圃場内の株に関して以下の基準を設けました。

- ①一般圃場の発病株から100mの範囲内の株からは採種できない。
- ②一般圃場のばか苗病発生程度が少発生以上の場合、採種圃場に最も近い発病株から200mの範囲内の株からは採種できない。

◆採種圃場周辺の生産者の皆様には、育苗ハウス・本田の巡回および抜き取りに対するご理解とご協力をお願いします。

◆ばか苗病の発生が確認された場合や疑わしい場合、育苗ハウス・本田の巡回については、JA、採種組合、普及センターにご相談下さい。

平成28年2月

北海道／道総研農業研究本部／ホクレン／北集／北海道米麦改良協会

米No.8

◎良質米麦の出荷目標



- 一等米 100%
- 整粒歩合80%以上確保
- 精米蛋白質含有率6.8%以下
- 仕上がり水分14.5～15.0%
- 入れ目1%以上確保
- 全量種子更新



- 一等麦 100%
- 低アミロ麦皆無
- DON暫定基準値1.1ppm
以下でできるだけ低いこと
- 赤かび粒混入限度 0.0%
- 異臭麦皆無
- 十分な入れ目の確保
- 全量種子更新

◎農産物検査事業の方針

- ◆公平、公正、迅速に行う。
- ◆必要な技術的能力の維持・向上に努める。
- ◆客観性・公平性から他部門からの影響排除。
- ◆制度の適正な運営に寄与する。



発行所

一般社団法人 北海道米麦改良協会

〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル5階 TEL 011-232-6495 FAX 011-232-3673

【業務部】E-mail beibaku@basil.ocn.ne.jp

【検査部】E-mail beibaku-kensa@carrot.ocn.ne.jp

北海道米分析センター

〒069-0365 岩見沢市上幌向町216の2 TEL 0126-26-1264 FAX 0126-26-5872

E-mail bun1@plum.ocn.ne.jp

<http://www.beibaku.net/>